



# 音羽通信

令和8年3月9日 第12号  
文京区立音羽中学校  
文京区大塚1丁目9番24号  
校長 齊藤 正富

## 大きくはばたけ 音中生

校長 齊藤 正富

3月、陽も長くなり寒さの和らぎとともに春の訪れが感じられます。梅は盛りを過ぎて、桃のつぼみが膨らみ、桜は今月中に咲いて、いよいよ樹々が芽吹く時節になりました。この時期の学校は、実りと芽吹きが重なる時期、一年を振り返り、これからに向けてスタートを切る準備を着実に進める時期を迎えています。

先月開催されたミラノ・コルティナオリンピック 2026では、華麗な演技、熱のこもった競技が観ている私たちをくぎ付けにしてくれました。私から言うまでもありませんが、それぞれの演技や競技の場面だけでなく、そこに至る過程についても、ドラマチックな場面がたくさんありました。これまでの努力が実を結んだアスリートがいた反面、結果に結びつかなかったり、期待に応えられなかったりしたアスリートがいました。それぞれの内面にまで踏み込んだ報道がされたり、SNSで事実と虚偽が混同されて伝えられたりする中で、紛れもないことは、オリンピックに参加していたすべてのアスリートが「すごい」ということではないでしょうか。アスリートも人間ですから、心身のコンディションがベストであったかは知る由もありません。ただ、逃げ出したくなるような心境だったとしても、すべてを背負ってそれぞれが演技、競技の場に臨んだことは間違いありません。また、メダルを獲得したアスリートを、思うとおりの結果ではなかった他のアスリートが祝福し称賛する場面では、見ている私たちが、何かを感じずにいられなかったと考えますがいかがでしょうか。

そのようなことを考えながら、本校のこの一年を振り返ると、多くの行事に仲間と協力しながら全力で取り組み、さまざまな体験を積み重ねる生徒と重ね合わせることができます。特に、3年生は最高学年として音羽中を引っ張り続けました。1、2年生も3年生の姿を手本に、自分たちにできることが発揮できる場面が増えています。さらに、授業や部活動など普段の学校生活でも多くのことを学びとり、成長することができたほとんどの生徒が感じていると思います。しかし一方で、思いどおりにならなかった場面があっても、それを受け止めて次に向けたエネルギーにしたり、逃げ出したくなるような場面であっても、自身がすべてを背負いその場に臨んだりできたでしょうか。もちろん、そうした場面で家庭や学校など周囲の支えは不可欠ですが、支える側も捉え方次第では、生徒の成長する機会を逸してしまうことがあるかもしれません。

19日に卒業式を控える3年生は、来月から新しい環境での生活が始まります。志望する上級学校の受験を乗り越えて、自身の進路を切り拓きました。最後は自力で乗り越えなければならぬ壁でしたが、決して一人ではないことを実感できたか、孤独感と葛藤せざるを得ない時間だったと振り返らざるを得ないかは、それぞれあると思います。人は、一人でいることには耐えられますが、孤独に耐えることは難しいといえます。受験が迫る中、登校することで孤独を感じることは少なかったはずですが。教室で仲間と語ったり、ふざけたりしながら、お互いに言葉や以心伝心で「あと少しの間だから頑張ろう！」と伝えあうことができたならば、自宅で一人になったときでも頑張る気持ちをもち続けられたことでしょう。そのように支え合えた仲間はこれからも大切にしてほしいものです。

